

令和8年度

奈良県公立高等学校入学者一次選抜学力検査問題

国語

注 意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙には，受検番号を忘れないように書きなさい。
- 3 解答用紙の※印のところには，何も書いてはいけません。
- 4 答えは必ず解答用紙に書きなさい。

【一】 次の文章を読み、各問いに答えよ。

ドラムブレーズを口で歌えるからといってすぐ体が追いついたわけではない。頭では自分で作ったブレーズが鳴っていても、それを実際に再現するのはA-Iではなく生身だ。1フレーズを何度も何日も体に染み込ませる。レコーディングの頃は、まだ完成度8割で、そのフレーズが完全に体に馴染むのはライブツアーをすべて終える頃だった。吹奏楽部の先生が言っていた「リハーサルのためのリハーサルではない」という言葉がよく理解できた。本番を踏むこと。あとがけない状況に自分を追いやること。たった1回の舞台での「ショウアップ」を積み上げること。それが生きた体験となつて自分の音を作っていた。

「今は来る者」拒まずで、なんでも引き受けてたくさん書くとい「い」と、作家になりたての頃に先輩からアドバイスを受けた。それもまさに、本番を踏めるだけ踏めということだった。ドラムも文章も一日にしてならず。それはどの職業でも同じだろう。突き詰めるからこそ険しく、険しいからこそ本当のおもしろいに達することができる。自分の気配が消えるまで鍛錬が積めたとき、自分のリズムが自然と滲み出ると、能楽師の有松遼一さんがおっしゃっていた。本当に、そのとおりで、多くのプロドラマーが「一番ムズかしい」のは8ビートだ」と言った。対して、多くの初心者は「8ビートなら叩ける」と言う。どちらも間違っていない。どこを見つめて生きているかという違いだけなのだから。8ビートを叩いたとき、その一言に人生が集約される。同じように、本を開いたとき、一文に人生が集約される。自分が消えるまで基礎を習得し、それでも消せないものが自分の個性なのだと思う。

「練習」については、1日だけ長時間練習するよりも、1時間を毎日繰り返すほうが体に染み込む。ドラムにも文章にも農業にも言えること。じゃがいもを植えて、明日収穫できないように、人の成長も日を

着いた今だとしても、それを受け入れる決断をしたのは自分だ。自信をもって決断し生きている人は、「いい音ができる文章」を書けるようになる。いい人生に必須なのは、いい失敗をたくさんすることだ。私は道に迷ってはコンビニやガソリンスタンドで「ここってどこですか？」と海外ツーリストみたいなことを聞いていた。それが、今は道案内人が常にいる。スマホができて以来、失敗できる機会が減ってしまった。充電さえしていればどこへでも案内してくれる。誰かに道を聞くことも聞かれることもなくなった。迷って苦労してたどり着いた場所や道は忘れることがなかったが、最近の便利な旅は簡単に消えていった。予定調和的で安心で、可もなく不可もない。すでに予習した目的地に行つてシールをもらつてまた次を目指す、確認の旅のように思えた。便利によつて搾取されているものは、便利以上に大きい。人間の軸の部分が揺るがされていく、というか、人間自体のリズムが大きく変わりつつある。

(高橋久美子『いい音ができる文章』による)
(注) A-I人工知能 コンビニニコンビニニエンスストア
スマホニスマートフォン

- (一) A、Cの片仮名を漢字で書き、B、Dの漢字の読みを平仮名で書け。
- (二) 線①と同じ働きをしている「ない」を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
- ア 昨日よりも人出が少ない。 イ かつて訪れた公園はもうない。
- ウ 決して夢をあきらめない。 エ この部屋の中なら寒くはない。
- (三) 線②と言えるのはなぜか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
- ア どちらか一言に自分の個性が表れるという点では同じであるから。
- イ どちらもおもしろさに達するために必要な経験であるから。

積み上げる重要性があるのだ。精神科医の先生とお話しさせてもらったとき、眠ることが、脳内を整理する上で大変重要なこととおっしゃっていた。そのとおりで、新しく作ったフレーズを練習して、ダメだ全然体が追いつかん、と思ったら、今日はひとまず帰って眠る。そして翌日またスタジオに行くこと、昨日できなかったことが不思議とできるようになっていく。本当に不思議なんだけど、むやみに詰め込みで練習するより、眠ることのほうが大事だ。文章においても追い詰められたときは眠るに限る。そして、早朝にペンを持つと、不思議と書くべきことが浮かび上がっている。毎日少しずつ積むことが鍛錬なのだと学んだ。

そして、突き詰めるとは、気づきを積み上げることではないか。いくらドラムの練習をしても、間違つたままで、たとえば8ビートがぶれたまま5時間叩き続けられ失敗が型になってしまふ。ドラムの練習をするときは2、3時間と決めて、録音しては聴き直しながら、なるほど3拍目が微妙に後ろにいるんだな、などと確認し、修正しながら練習を重ねた。

言葉も同じで、消しゴムを使わない。二重線で消し、自分の思考回路の変遷を追えるようにしている。数日後、1日目の紙に戻って、そこから単語をピックアップしていることもある。「ジャンルは違えど、高い山をどこから登るかのようなこと」。徳島の僧侶の友人が言っていた。まさに、みんな何合目かで踏ん張つて山登りを続けている。物事を突き詰めると、多少の風雨には脅がされない、しゃんとした背骨を与えてくれる。その背骨は、職業や住む場所が変わつても、ぶれることのない私のリズムの核になっている。

文章を書くのは決断の連続である。どんな題材にするのか、どの視点から見るのか、どんな言葉を選ぶのか、どこで終わらせるのか。書くには「決断の訓練」が必要だ。あなたの人生も、少なくとも大人になつてからは、すべてが決断でできているだろう。たとえ誰かに誘われて流れ

- ウ どちらか毎日少しずつ鍛錬を積んだ結果言えることであるから。
- エ どちらかそれぞれの目指すところから導かれた感想であるから。
- (四) 線③とあるが、なぜ練習するより眠ることが大事なのか。文章中の言葉を用いて二十五字以内で書け。
- (五) 線④とあるが、ドラムの練習で変遷を追えるようにするために筆者がしていることを、文章中の言葉を用いて簡潔に書け。
- (六) 線⑤と筆者が考えるのはなぜか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
- ア 旅を計画どおりに進めてくれる人がいる安心感はあるが、思いがけない体験にわくわくすることがないから。
- イ 会いたい人とは苦労することなくすぐ会えるが、他者との偶然の出会いにより視野が広がることはないから。
- ウ 行きたいところに迷うことなく簡単に行けるが、いい人生を送るために不可欠な失敗の機会が失われるから。
- エ 魅力的な旅行プランを見つけないことは容易であるが、行き先や行程がありきたりで期待外れの旅になるから。
- (七) この文章の述べ方の特色として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
- ア 経験に基づいた自分の思いを、他者の言葉を効果的に用いながら率直に述べている。
- イ 長く抱き続けてきた自分の思いを、情景描写に重ねて印象づけるように述べている。
- ウ 年齢を重ねるごとに変化してきた自分の思いを、時系列で説明するように述べている。
- エ 理解されにくい自分の思いを、客観的な情報を加え説得力をもたせながら述べている。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

現代の科学は集団で考える営みだが、実はそのこと自体は狭い意味での科学に限ったことではない。人間という生物は、そもそも単独で考えることはほとんどないし、ひとりだけで知識を生み出すこともめったにないのである。

人間は自分ひとりでは得がたい知識に取り囲まれて生きているし、個人のもつ知識の大部分もその中から得られるものである。自分の氏名に始まって光の正体まで、実に幅広いことがらについて知ることができるのは、ひとえにそのおかげなのだ。

① ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

そして何より新しく情報や知識を作り出すには、自分以外の人間によるそれまでの蓄積の上に立ち、また他の人間の力にうまく頼らなければならぬ。とりわけ科学はその傾向がはっきりしている。実際のところ、よくある「孤高の天才」という科学者のイメージは、手つかずの分野が開拓できた過去の時代ならともかく、少なくとも現代ではほとんど間違っている。自分の研究室や実験室に閉じこもり、他の科学者たちからの理解も得られていないけれども、革新的な達成を独力で成し遂げる……のではなく、他の研究者の力を存分に借りることで、個人の限界を乗り越えて進むのだ。これは、集団による取り組みが、ひとりの天才に出せる成果をたいてい上回るように組織化されている、ということの意味している。では、うまく組織化された集団とはどのようなものだろうか。

科学をはじめとして、人間の知の営みは、基本的には個人事業としてではなく集団による一種の分業体制のもとで行われている。たいていの人はファスナーの製造方法を知らないけれども、社会の中にはそれに詳しい技術者がいるので、安心して任せてしまっただけで構わない。明日の天気については気象予報士に頼るし、勤めている会社に法務部があれば取引先と

依存の関係こそが、現代の科学の成功を支えているのである。認知的分業は人間の知の営みの重要な特徴だが、それがあまりにも深くすすみ至るまで浸透しているせいで、かえってその働きに気がつきにくいかもしれない。そのことに関係するのが、説明深度の錯覚という現象だ。

自分が深く説明できるつもりのことでも実際には浅い理解しかもっていない、というのが説明深度の錯覚である。自転車の構造、ファスナーが閉まる仕組み、潮の満ち引きや季節の移り変わりのメカニズム、などが説明深度の錯覚が起る例だ。この錯覚が起ることは、説明深度の浅いこと、ひとつには、自分が所属するコミュニティの自分以外の誰かが知っているという事実を、自分自身がよく理解していることと取り違えてしまうためだ。認知的分業がうまく行われていれば、専門家への知の委託・依存は意識すらされなくなる。しかしそこには、集団のレベルで成り立っている知識や理解のありようを個人のレベルで自分のものとして混同して捉えてしまう異も潜んでいるのである。

(注) 植原 亮「科学的思考入門」による
メカニズム⇨仕組み コミュニティ⇨共同体

- (一) 線①の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
- ア おそらく イ 特に ウ 必ず エ もっぱら
- (二) 線②の「孤高」とは、科学者のどのような様子を表現したもののか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
- ア 他とのつながりをもたず一人寂しく過ごしている様子
イ 自分を他より優れたものとして過大評価している様子
ウ 一人超然として自らの信じる道を突き進んでいる様子
エ 頼れる人がおらず不利な状況に追い込まれている様子

の契約書に問題がないかを確認してもらえらるだろう。こうした専門的な知識や情報の委託・分担のことを「認知的分業」あるいは「認知的分業」と呼ぶ。

科学における認知的分業について具体的に見ていこう。気候科学は、事前のとおり、地球の気候を対象としてその変化や影響について理解することを目指す研究分野である。気候には、大気、海洋、陸地、氷床などが関わっており、またそれぞれにも複数の階層がある。そのため、気候科学は全体として、自ずと色々な領域にまたがる「学際的」な分野となる。たとえば、大気循環についての数理モデルを構築する、かつて海水面がどのくらい上昇したかを地質学的な証拠にもとづいて見積もる、南極の氷床から遠い過去の氷のサンプルを採取する、などなどの課題に取り組みなければならぬ。

どの取り組みも気候科学には欠かせないが、ひとりの研究者がすべてに通じることは現実には不可能である。だからどうしても認知的分業が必要になる。自分が専門家として担当している領域の外側については、他の専門家の力に頼るほかない。だがそのおかげで、気候科学という大きな分野でも、個人で扱える範囲をはるかに超えた水準での継続的な研究が成立するのだ。

気候科学は、認識論を研究するニール・リーヴィが取り上げている例だ。そしてリーヴィがいうように、こうした認知的分業は学際的な分野かどうかを問わず、程度差はあっても科学では一般的なものだ。脳の活動を画像化して調べるときに使われるfMRIという手法について考えてみよう。fMRIをよく使用しているからといって、自分でその装置が作れる研究者はほとんどいないし、トラブleshootingも外注するのが普通である。この手法のメカニズムについて正確に説明しようとすれば、別の分野の専門家にも頼らなければならない。しかし、そうした知の委託・

- (三) 線③が、科学において行われるのはなぜか。「専門家」の語を用いて六十文字以内で書け。

(四) 線④とはどのような分野か。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア 海外に拠点を置いて活動する分野
イ 複数の異なる学問が関係する分野
ウ 最先端の技術について研究する分野
エ 各国の学生が協力して調査する分野

(五) 線⑤が起る原因として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア いつでも専門家の知識を借りることができるため、新たに自分で学ぶ必要がなくなってしまうから。
イ 認知的分業が進みすぎることにより、個人の能力がまるで劣っているかのように見えてしまうから。
ウ 科学の発展があまりにも早すぎるために、個人のレベルでの理解が追いつかなくなってしまうから。
エ 自分の属する集団の誰かが知っていることを、自分自身が理解していることだと思ってしまうから。

(六) 【一】の部分には、この文章の中でどのような働きをしているか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア これまでの主張に内在する課題を明確にすることで、多面的なものの見方を示している。
イ これまでの主張をわかりやすく整理することで、最も伝えたいことを明らかにしている。
ウ これまでの主張に具体性をもたせることで、複雑な内容をよりイメージしやすくしている。
エ これまでの主張から想定できる仮説を立てることで、今後起こりうる課題を明示している。

三 次の文章を読み、各問いに答えよ。

ア 祖仙^{そせん} 崎陽^{さきやう}の人、浪花^{ななば}にすめり。猿をうつして、画名一時に雷同^{らうどう}す。世に祖仙の猿と称^{なづ}して渴望^{かつぼう}するもの多し。そのはじめ崎陽にある日、獺^た者に託^{たく}して一猿を買ひ得たり。これを庭樹^{ていじゆ}につなぎ置きて、そのかたはらにありて猿のおもむきをうつすこと数篇^{すうぺん}にして、つひに絹に淨写し、来舶^{らいぱく}の某氏^{かみかみ}の鑑^{かん}を乞ふ。某氏^{かみかみ}はいはく、「惜しむべし、この猿は人家の養育^{よういく}の形にて山中自在^{じざい}のおもむきにあらず」といはれければ、猶^{なほ}また山に入り切礎^{せきそ}すること両三年、つひにその真図^{まづ}を得たりと。

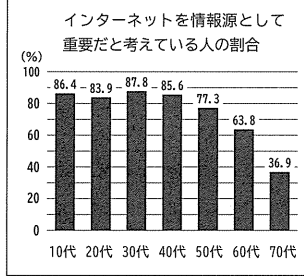
〔「仮名世説」による〕

〔注〕祖仙^{そせん} 江戸中期の画人 崎陽^{さきやう} 長崎の別称
浪花^{ななば} 大阪市及びその一帯の古称 雷同^{らうどう} 有名になる
淨写^{じゆんぎや} 清書し 某氏^{かみかみ} ある人 鑑^{かん}を乞ふ 批評^{ひひう}をしてもらう
猶^{なほ}さらに 切礎^{せきそ}する 二つとめ励む 両三年^{りやうさん} 二、三年の間

- (一) 線①の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
- ア 祖仙という名を自分の猿につけたいと望む人
イ 祖仙が描いた猿の絵を手に入れたいと望む人
ウ 祖仙が崎陽から連れてきた猿を見たいと望む人
エ 祖仙のように多くの猿を育ててみたいと望む人
- (二) 線②の動作の主体を、文章中の〳〵線ア～ウから一つ選び、その記号を書け。
- (三) 線③とはどういうことか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
- ア 山中の猿を自分の家で大切に育てることで、ようやく心が通じ合うようになったということ。
イ 山中での猿との自由な暮らしを経験し、ようやく自らの望む生き方を手に入れたということ。

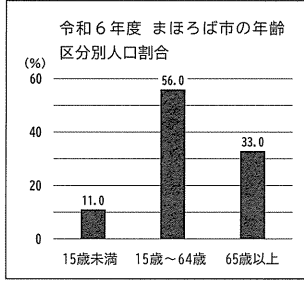
に掲載してもらえるか、市役所に聞いてみてはどうでしょうか。
春香 そうですね。多くの人に情報が届くと思うので、いいかもしれせん。ただ、幅広い世代の人に来てもらうという点ではどうでしょうか。他に意見はありますか。
若菜 私は、陽一さんの意見を聞きながら調べてみたのですが、ウェブサイトでこんなデータを見つけました。【資料Ⅰ】は、インターネットを情報源として重要だと考えている人の割合を年代別に示した全国的な調査のデータです。【資料Ⅱ】は、令和六年度のまほろば市の年齢区分別人口割合のデータです。

【資料Ⅰ】



「令和六年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」から作成

【資料Ⅱ】



ウ 山中で暮らす野生の猿の姿を描き続け、ようやく猿本来の姿を描けるようになったということ。
エ 山中で某氏と画力を磨き合うことで、ようやく理想の猿の絵を描けるようになったということ。

四

次の行書で書いた①～④の漢字について、楷書で書いたときとの違いをそれぞれ説明したものととして正しいものを、後のア～エから一つ選び、その記号を書け。

粉雪の降る街

- ① ② ③ ④
- ア ①は筆順が変化している。 イ ②は点画が省略されている。
ウ ③は筆順が変化している。 エ ④は点画が省略されている。

五

まほろば市にある春香さんの中学校は、幅広い世代の人が交流することを目的とした校区の秋祭りに参加することになった。次は、生徒会役員の【話し合いの一部】と、生徒会役員の若菜さんが示した【資料Ⅰ】【資料Ⅱ】である。これらを読み、各問いに答えよ。

【話し合いの一部】

春香 今日、秋祭りのために私たちが協力できることを考えていきましょう。何か意見はありますか。
陽一 私は、多くの人に秋祭りに来てもらいたかったので、学校のウェブサイトを利用して呼びかけたいと思います。以前、文化祭のお知らせを掲載したときには多くの人に来てくれました。
春香 確かに学校のウェブサイトを利用するのはよさそうですね。それ以外にも、多くの人に来てもらう方法がありますか。
陽一 校区外の人にも来てもらえるよう、まほろば市のウェブサイト

- (一) 線部の陽一さんの発言の仕方について述べたものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
ア 自分の意見を発展させた新たなアイデアを提案している。
イ 自分の意見の間違いを訂正して新たな意見を述べている。
ウ 他の人の意見との違いを強調しながら考えを主張している。
エ 他の人の意見を取り入れて自分の意見と組み合わせている。
- (二) 【話し合いの一部】における春香さんの話し合いの進め方として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
ア 発言する際の決まりを示し、話し合いが円滑に進むようにしている。
イ 発言者に資料の提示を求め、意見の根拠を明確にしようとしている。
ウ 意見を好意的に受け止めた上で、話題に沿った発言を促している。
エ さまざまな意見の共通点を明らかにし、話し合いをまとめている。
- (三) 【話し合いの一部】の□内では、若菜さんは、【資料Ⅰ】【資料Ⅱ】を用いて、自分の考えを述べようとしている。あなたが若菜さんなら、どのように考えを述べるか。次の①、②の条件に従って、場に応じた言葉遣いで書け。なお、【資料Ⅰ】は資料Ⅰ、【資料Ⅱ】は資料Ⅱと書いてよい。

- 条件① 二段落構成で書くこと。第一段落では、【資料Ⅰ】及び【資料Ⅱ】からそれぞれ読み取れることを書き、第二段落では、読み取ったことをもとに、幅広い世代の人に来てもらうための具体的な提案を書くこと。
条件② 原稿用紙の使い方に従って、百字以上百五十字以内で書くこと。ただし、題、自分の名前は書かないこと。